

HIDEAKI NARA

1. 2001年より日本代表でプレーを続ける奈良選手はステップはもちろん、スピード、パス、判断力すべてで世界レベルだという 2. 2019年のタッチラグビーワールドカップでは、準決勝で強豪のニュージーランドに敗れるも、パプアニューギニアとの3位決定戦を5-2で制し、初のメダルに輝いた 3. タッチラグビーの普及やレベルアップにも精力的。町田市内ではさくらん幼稚園や小山田小学校などのサマースクールでも指導を行う 4. 自身5回目の挑戦で初めて掴んだワールドカップのメダル。子どもたちからのメッセージがたくさん書かれた応援旗も現地に持ち込んだ



ならひであき 1983年3月29日町田市生まれ 町田市立緑ヶ丘小学校、本町田中学校、忠生高校までは野球に取り組み日本体育大学入学後にタッチラグビーに出会う 城南ジョーカーズ所属 2015年5位 2019年3位 2019年に日本初のタッチラグビースクール「町田セルビアBLUES」を設立、小学生を対象に指導を行う また、日本サッカー協会の「夢先生」の資格も



2017年7月 全日本タッチ大会準優勝 全日本タッチ選手権2017年11月準優勝 2018年11月準優勝 ワールドカップ2003年4位 2007年4位・日本チームMIP 2011年4位・日本チームMIP 保有、全国の小中学校で夢をもち努力することの大切さを伝えている

タッチラグビーは
自分が輝ける場所

ラグビーワールドカップが日本で開催される2019年は
タッチラグビー界にとっても記念すべき年となった。
4月29日からマレーシアで行われたワールドカップで
男子チームが念願の銅メダルに輝いたのだ。
チームを牽引するキャプテンは
町田生まれ、町田育ちの36歳、
奈良秀明選手だ。

特集 2
奈良 秀明
タッチラグビー日本代表

タッチラグビー一色の人生を歩んできた。

彼の武器はタッチラグビー界トップクラスのステップだ。相手を置き去りにする華麗なステップはラグビー界でも注目され、トップリーグの選手から指導を依頼されることもある。少年のような笑顔を見せる奈良選手だが実は36歳。日本代表の中では最年長だ。今年行われたワールドカップでは、一回りも年が違ふ選手たちと共に戦い抜き、初の銅メダルに輝いた。

現在は都内のクラブチームに所属し、セルビアのタッチラグビースクールや、府中の7人制女子ラグビーのヘッドコーチ、また町田市内の幼稚園や全国で個人レッスンをを行うなど、指導者としても多忙な日々を送っている。

「タッチラグビーを通して人を笑顔にしたいんです。まだ認知度が低く競技人口も少ないスポーツですが、その魅力をもっとたくさんの人に知ってほしい。次回のワールドカップももちろん狙っていますよ。そして、違う色のメダルを絶対に取りたい。」

日本に初のメダルをもたらした笑顔のレジェンドは、日本代表という使命を胸に、まだ見ぬ高い場所を見据えている。

ラグビーの半分のフィールドで行われるタッチラグビーは、オーストラリア発祥のサマースポーツ。1チーム6人で、ラグビーよりも一回り小さい楕円球で行われる。日本では1989年に始まり、まだ歴史は浅い。タックルやスクラム、キックがなく、キッズからシニアまで、そして男女混合でも楽しめることで、近年は競技人口も増えている。日本代表は1991年からワールドカップに出場しているが、一度もメダルには届いていなかった。

奈良秀明選手がタッチラグビーに出会ったのは大学1年生の時。幼い頃からスポーツ万能だったが、心底、真剣に向き合いたいと思えるものに出会えずにいたという。そんな彼を突き動かしたのは、キャンパスで偶然目にした「日本代表になれる」というフレーズだった。軽い気持ちと密かな野望でタッチラグビーの扉を叩くと、次第にそのスピード感やトリッキーなプレーなど、これまで出会ったことのない世界に夢中になっていった。そして1年もたたないうちに日本代表に選ばれ、遠征で訪れたタッチラグビーの本場・オーストラリアで、桁違いのレベルを目の当たりにすることになる。以来、